

# 中央アフリカ共和国における 社会の安定化、および過激化と 暴力的過激主義の予防



日本補正予算：2020：2020年3月～2021年3月

予算：50万米ドル

主なパートナー：暴力的過激主義に関する国家戦略調整委員会、人道支援・国民和解大臣および計画・経済大臣

## 目的

このプロジェクトは、紛争の被災者救済を目的として地域経済の復興や自立支援を行い、持続可能な収入向上活動を支援します。

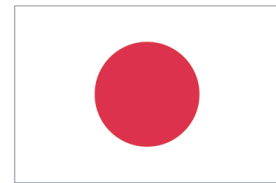
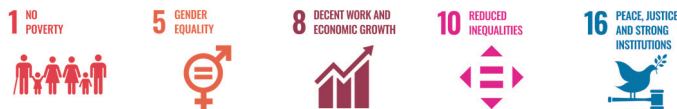
このプロジェクトの結果、(1) 持続可能な収入向上活動の参加に伴い、受益者は生活向上と雇用の機会を得る、(2) 国家戦略調整委員会は、紛争、過激化、暴力的過激主義の脅威を早期発見するための仕組みと組織に関する必要な情報を収集します。

## プロジェクトの成果

成果1：帰還難民や避難民、元戦闘員、女性、若者などの弱者層が、生計を立てる機会と持続可能な雇用を得られるようにすること

## SDGs への貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標1、5、8、10および16に貢献します。



From  
the People of Japan

## 開発課題

2019年2月6日、中央アフリカ共和国(CAR)政府は、国土の大部分を支配下に置く14の武装集団と和平協定に署名しました。これにより政府は、より包摂的な体制の形成と、武装集団の代表や一部の兵士を新たに国軍部隊に統合することに取り組むことを約束しました。ようやく合意が成立し、新政権が樹立されたものの、協定履行面で深刻な課題が残り、治安は依然として不安定な状態が続いています。また数度にわたって和平協定違反が生じ、民間人も暴力の標的となっています。

情勢不安にもかかわらず、国境付近では自主的な帰還活動が始まっており、4,000人の中央アフリカ難民がコンゴ民主共和国(DRC)からロバイエ州に帰還する予定です。帰還難民の大多数は主にイスラム教徒であることから、彼らの平和的な社会復帰が懸念され、コミュニティ間の紛争が案じられています。その旨、帰還難民と受入側のコミュニティ双方に対し、暴力的過激主義の蔓延を防ぎ、持続可能な生活向上を促進し、地域コミュニティの崩壊を防ぐための緊急支援を行う必要があります。